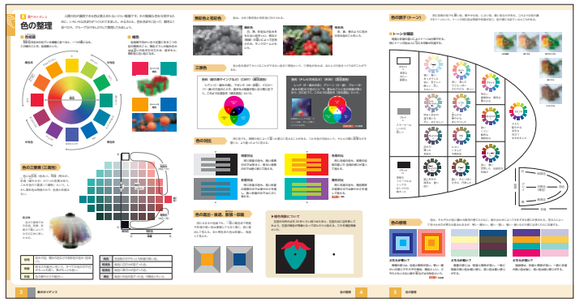
■実践事例①　A表現　　第１学年　５時間

# 絵画　みんなでカメレオンになろう
## （絵の具＋色鉛筆の併用）

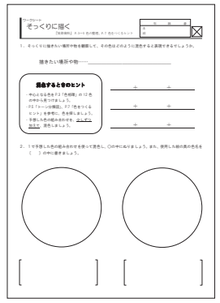
| | |
|---|---|
| 概　要 | 身の回り（教室内）を観察し、興味をもった部分（15cm×15cm）をそっくりに描く。<br>• 擬態の資料写真や『美術資料』の参考作品を鑑賞し、そっくりに描く関心・意欲を高め、授業の内容を把握する。<br>• 教室内の壁面・床など、そっくりに描きたい場所を見つける。<br>• 対象の場所を観察・下描きし、絵の具をそっくりな色に混色し彩色する。細部の色の変化は色鉛筆などの重ね塗りも活用する。<br>• 対象とした部分にそっくりに描いた作品を重ねて置き、教室内で相互鑑賞を行う。 |
| 評価規準 | 知 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、よさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解している。<br>技 絵の具や色鉛筆の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。<br>発 身近なものを見つめ感じ取った形や色彩、質感の特徴や美しさなどを基に主題を生み出し、心豊かに表現する構想を練っている。<br>鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなど、見方や感じ方を広げている。<br>態表 身近なものの特徴や美しさなどを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする学習活動に取り組もうとしている。<br>態鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と工夫などについて考えるなどの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |

【美術資料の活用】



美のガイダンス 色の整理 P.3〜5

美のガイダンス
色をつくるヒント P.7



授業で使えるワークシート
［そっくりに描く］

| | |
|---|---|
| 知識/技能 | こんな色をつくるには？<br>もう少し落ちついた色にするには？ |

実際に絵の具を混色して『そっくりな色』をつくる活動をとおして、P.3 **色の三要素：「色相」「明度」「彩度」、色相環**、P.5 **色の調子（トーン）**などを実感的に理解させたい。部分的な色の変化は、水彩絵の具のみで表現することは難しいので、水彩絵の具に色鉛筆を重ねて微妙な色の違いも表現させたい。アクリル絵の具を使用するときは P.40・41 **アクリル絵の具で描く**も参考にする。

| | |
|---|---|
| 思考力<br>判断力<br>表現力 | ここの凹凸の感じは、どんなふうに描いたら表現できるのか？<br>金属の光っているところや木のところ、コンクリートの表現は？ |

↓色鉛筆で描く P.42

↑水彩絵の具で描く
P.38・39

質感を表す P.37

静物を描く　岸田劉生
「静物ー赤りんご三個、
茶碗、ブリキ罐、匙」P.52

洋画と日本画
高橋由一「鮭」P.119

質感の表現については、P.37 **質感を表す**も参考にさせる。そのものの色（固有色）に、光があたり影（陰）ができる。質感と光と影（陰）による明暗との関係を意識させたい。凹凸表現については、P.128 **空想・夢のルネ・マグリット「ピレネーの城」**の岩の表現なども参考にできる。

秀学社

■学習の流れ

| 段階 | 活動内容 | 指導者の働きかけ | 評価 | 留意点及び評価方法など |
|---|---|---|---|---|
| 導入<br>1時間 | ○「そっくり」と聞いて、どのようなものが思い浮かぶか考える。<br>○最初に P.119 **洋画と日本画 高橋由一の「鮭」**を鑑賞し、そっくりに表現するポイントを確認。<br>○課題の把握<br>○P.52 **静物を描く 岸田劉生、ラトゥールなど**（布、木、金属）、P.128 **空想・夢 ルネ・マグリット**（岩などの自然物）などから、そっくりに表現する工夫を考える。<br>○そっくりに描く場所の決定<br>スケッチブックに描こうと思う場所のスケッチをする。<br>○場所が決まったら、その場所の四隅をマスキングテープでマークしておく。 | ○（発問）『「そっくり」から、何を思い浮かべるだろうか？』（回答の予想「昆虫の擬態」「モノマネ」「ニセモノ」等）<br>※擬態の写真資料などの提示。<br>• 形の「そっくり」と色の「そっくり」の両方に気付かせる。<br>○「みんなでカメレオンになろう」と板書し、「15cm×15cmの用紙に選んだ場所とそっくりな絵を描く」と課題を説明する。<br>○教室内のそっくりに描きたい場所を決めさせる。<br>• そっくりに描くことを前提に、形や色彩の特徴や面白さを観察し、場所を決めるよう指示する。 | 鑑<br>発 | • そっくりに描いた作品を鑑賞し、作品の面白さや創意工夫している点に気付かせる。<br>【発言・制作記録の記述】<br>• どのようにすれば、そっくりに描くことができるのか、具体的な方法を考えさせる。<br>形：この題材では同じ大きさ、同じ形<br>色：絵の具を混色して同じ色をつくる<br>【場所を決定する様子・スケッチ】 |
| 展開<br>3時間 | ○前時に決定した描く場所を確認<br>制作の手順を確認し、計画を立てる。<br>○下書き（その場で形を写す）<br>○彩色：絵の具を混色し、そっくりな色をつくる。絵の具は乾くと色が変化するので、試し塗り用紙に着彩し、確かめながら彩色を進める。<br>○仕上げ：絵の具のみでは表現が難しい微妙な色の変化は、P.42 **色鉛筆で描く**を参考に色鉛筆の重色なども活用する。 | ○課題の内容、制作手順などについて再確認する。<br>○課題用紙（15cm×15cmの画用紙）を配布<br>• 写しにくい場合はトレーシングペーパーなども使用させる。<br>○試し塗り用紙（課題用紙と同質）を配布<br>• P.3 **色の三要素：「色相」「明度」「彩度」、色相環**などを確認するとともに P.5 **トーン分類図**や P.7 **色をつくるヒント**を参考に混色させる。<br>• P.38・39 **水彩絵の具で描く**を参考に彩色の技法を工夫させる。<br>• 目に見える色は、そのものの色（固有色）＋光と影（陰）であることにも気付かせたい。<br>（参考：P.37 **質感を表す**） | 態表<br>発<br>知<br>技 | 【制作の様子】<br>• 本題材のポイントは「色彩」（色及び混色の実感的理解）のため、形については、基本的に実物を正確に写す活動となる。<br>【制作途中の作品・制作記録の記述】<br>• 決めた場所の良さや面白さと、形や色との関係を意識させる。<br>• 混色については、**ワークシート［そっくりに描く］**も活用できる。<br>• 細部をより精緻に描き込む工夫により、完成度を高める達成感を味わわせる。 |
| まとめ<br>1時間 | ○各自が描いた場所に作品を置き、相互鑑賞する。<br>○他の人の作品を見て、描かれたものと実物を比較し、表現の工夫を感じ取る。<br>○感じ取ったことについて意見交換する。 | ○直感的な上手・下手の評価ではなく、表現の工夫について気付いたことを言語化して確かめさせる。 | 態鑑<br>鑑 | 【鑑賞の様子】<br>【発言・意見交換の内容・制作記録の記述】 |

**◆指導のヒント**　「そっくり」に興味をもたせるために、導入段階で動物や昆虫の「擬態」の画像などの活用も有効です。

昆虫がかくれています。どこでしょうか？

**○さらに学習を深めるために**

混色を実感する

**混色事典**

**定価490円**（税込）　B5判｜32ページ｜オールカラー

ポスターカラー、水彩絵の具、アクリル絵の具それぞれの特性を生かした色づくりと技法を紹介しています。色づくりがしやすいように、400色以上の色コマを示し、色料の割合を数字と丸の大きさで表示しています。

秀学社